

# 中学進学ガイド

## 学校生活が変わる

中学校生活の全体像を確認しましょう。  
押さえておきたい重要なことが4つあります。

### **Point 1 中学は自己管理を学ぶ場**

中学生は自立した存在として、一人前に扱われます。それは中学校が、大人であるとはどういうことかを学び始める場だからです。

小学生時代には、子どもたちはまさに「こども」なので毎日学校に通ってさえいればよく、大事なことは学校の先生と保護者が管理してくれました。

それが中学では、原則として、本人にかかわることは本人に直接伝えられ、その指示や予定に基づいて適切に行動することが求められます。このことをしっかり押さえていないと、楽しかるべき中学校生活は、スタート草々暗礁に乗り上げてしまいかねません。「自分のことは自分で管理する」という考え方が中学校の大原則になっていることだけは決して忘れずに、日々の生活を送るようにしたいものです。

逆にその一点がしっかりしていれば、自分で決められることも増える中学は、本人にとってのびのびと活躍できる楽しい場所になるはずで

### **Point 2 勉強が中心というあたりまえのこと**

「自立」の中心に勉強があります。

もちろん、人の成長にはいろいろな局面があるので、部活中心の時期や行事に熱中する期間があることはむしろ自然で、何の問題ありません。しかし、3年間のトータルな中学校生活を考えた場合、やはり「勉強がいちばん大事なこと」という軸は絶対にずれることがあってはいけません。これはあたりまえのことで、実際、生徒たちも本当はこのことをよくわかっているのに、勉強がうまくいかないとどうしても気持ちが不安定になりやすく、学校生活の楽しさもしぼんでしまいます。そして、もちろん高校入試が控えていることも忘れるわけにはいきません。必ず、勉強で成果をあげることを中心に、学校生活を構築していくようにしましょう。

### **Point 3 友だちの大切さ**

中学時代の子どもの成長は、世界の拡大という形をとります。具体的には、これまで家族という単位の中にすっぽり収まっていたわが子に、保護者の知らない友だちが増えていくこととなります。たいていの子は、どんどん外に広がっていき新しい世界への興味が強くなり、友だちを非常に大切な存在として強く意識するようになります。

親離れが始まるこの時期、保護者もちょっとした違和感やさびしさを感じることもあるかもしれません。しかしこれは自然の成り行きなので、わが子の進歩を喜びとし、保護者の皆さんも少しだけ子離れしてバランスをとるほかありません。もちろん、自分だけで作っていく世界には危うさもつきものなので、わが子を観察する眼力は持ち続けなければいけません。基本的には温かく見守る態度で臨むことが、よりよい関係を保ち、さらなる成長を促すことにつながります。

### **Point 4 中学生は大人並みに忙しい**

中学生は勉強と部活だけでも結構たいへんなのに、行事や委員会活動があり、塾に通ったり、さらに独自の学外活動までやっている生徒もいます。とても忙しいのです。でも、体力的に可能ならば、なるべく逃げずに体験してみた方がいいのではないのでしょうか。

中学生の大目標は、社会的な能力を身につけることです。その核心に時間とのつきあい方があります。多忙な生活を送ってみることは、時間を上手に使ういい練習になります。

# 勉強は自己責任

すべてが自己責任の中学では、勉強に対する考え方も小学校とは違ってきます。勉強そのものと勉強に関わるいろいろなこと。その全体を見るが必要になります。

## Point 1 受け身の勉強を卒業する

先生が教室に入ってきて、「教科書の〇ページを開いて」から始まるのは小学生の勉強です。先生もそれを前提に考えてくれるので、そのあとの授業時間にきちんと話を聞いて一生懸命やれば、それでちゃんとうまくいきました。

しかし、中学生にとっての「勉強」はもう少し広い内容を含む言葉です。もっと積極的に自分のやっていることを把握しておかないと、他の人は本人の代わりにそれをやってくれないのです。

受け身からの脱却——これが中学生の学習のカギです。

## Point 2 中学の先生は「教えて評価する」存在

中学では科目別に担当の先生がちがいます。先生の仕事は、基本的に教科の内容を教えること、そして、理解するための手段として演習の材料を提供することです。

与えられた知識や演習の材料をしっかりとやって自分のものにしていくことは、生徒側の責任です。先生がたは親切なので、宿題の提出を厳しく迫ったり、勉強しない子をいさめたりしてくれますが、それはいわばサービスです。「やらされている」とか「怒られる」とかマイナスにとらえる子は、根本的に中学の勉強のルールがわかっていないといわざるを得ません。教えられた内容は最終的に成績という形で評価するのが、先生たちの次の仕事です。中学の成績は高校入試の合否判定資料になりますから、先生たちは客観的に公正な判断をしなければなりません。

このように、先生と生徒の関係も、中学ではがらりと変わります。甘えずに、自分でやる覚悟を持つことがとても大切です。

## Point 3 管理の基本が問われる「情報集め」

中学では勉強を取り巻くいろいろなことも自分で管理することになります。たとえば、各科目で配布される学習資料類をきちんと保管して必要なときにいつでも取り出せるようにしておくこと。あるいは、定期テストの日程や各科目の出題範囲などを頭に入れておくことなどは自分の責任です。自分で管理できるようになるまで手伝って教えてあげることはまったくかまいませんが、いつまでも保護者まかせにしているようでは、勉強で成果があがることはありません。自立できるように導いてあげてください。

## Point 4 「いまどこをやっているか」をわかっている子は英数ができる

いよいよ授業の内容の話です。

勉強全体を自分で管理できている生徒は、各科目で今何をやっているかを把握しています。たとえば数学なら、「今週から文字式の分配法則に入った。あとは分数の関係する計算が残っている。それが終わると応用問題に入るようだ。」という具合。仮にこの生徒が、いまのところ分配法則に苦労しているとしても、このように流れがつかめていると、本当にわからなくはありません。どの部分で努力が必要かがわかっているので、そこをしっかりとやれば何とか見通しがつくからです。そういう子は、次の定期テスト範囲がどのあたりまでになるかもだいたい見当をつけています。

勉強がわからないというのは、長く続いていく学習の中で完全に自分の現在位置がわからなくなってしまった状態のことです。こうなると、あきらめや苦手意識が出てきて、一度人手を借りないと追いつくのが難しくなります。

## Point 5 授業中に中身を理解

多忙で時間が貴重な中学生にとって、授業の受け方は大切です。

塾できちんと勉強していると、主要科目の英数国が少し楽に感じられるときが訪れます。また、理社などのほかの科目でも、一時限のなかで扱う内容がかなり少なく見えてきます。そのとき、授業がつまらないといいながら退屈して過ごすか、今やっている内容はこの場で覚えてしまおうと考えるかが大きな分かれ道になります。

成績のいい生徒はほぼ後者です。そうすれば復習をする必要もなく、その分の時間をほかの勉強や活動に使うことができるからです。どんな風に過ごしても、一時限は一時限。その時間を活かすのが中学校生活のコツです。

## Point 6 定期テストで完結するサイクル

中間・期末の定期テストは、重要な学習の機会です。成績の大筋がこのテストで決まるという緊張感もあるので、誰しも普段より気合を入れて勉強します。年に4~5回という回数も、1回あたり1~2週間の勉強で準備ができる絶妙の間隔になっています。いい成績をとるための勉強が長い目で見て学力向上に非常に役に立っています。もしも定期テストがなかったら、受験勉強の終盤戦は現在よりももっとハードで地獄のようなものになってしまうでしょう。テストの「試される」という側面を気にする生徒がときどきいますが、保護者の皆さまには定期テストの優れた学習効果を知っておいていただきたいと思います。